

オリパラ教育「実践報告会（地域ワークショップ）」を開催しました

2月13日、島根県立男女共同参画センター『あすてらす』において、今年度のオリパラ教育推進校による実践報告に併せ、オリパラ教育に関する講演を行いました。

今年度の推進校担当者のほか、市町教育委員会や「よいい、ドン！スクール」認証校、報道機関からの参加がありました。全国中核拠点（筑波大学）からも2名お越しいただき、各校の特色ある取組を共有することができました。



<実践報告> ※ 各校の発表スライドの一部を掲載しています。



大田市立久屋小学校

全校朝礼で啓発、図書や掲示物の充実、空手イタリア代表団との交流、校内運動会の工夫、PTA 研修会でのボッチャ体験、地域との交流など、教育活動のあらゆる場面でオリパラ教育を推進。



川本町立川本小学校

3年生がパラリンピックについて学習。元パラリンピアンとの交流、学んだ成果を学習発表会で披露。休み時間を利用して他学年にボッチャを広める。今後はPTA や地域への発信も想定。



益田市立美都中学校

パラリンピック種目について学んだことを、体育祭や文化祭、小学生との交流活動等において生徒が主体となって情報発信。パラリンピアンとの交流やボランティア活動にも積極的に挑戦。



県立松江清心養護学校

「清心フェスティバル」でオリパラについて学習したことを発表・実演。元オリンピックによる講演とボッチャの本格的な指導。地域の人を招いたボッチャの交流試合を生徒の企画で実施。



県立松江ろう学校

オリパラに関する図書を整備。「図書館まつり」でオリパラ特集。クイズ形式で楽しく学習し、正解者には手作り金メダルの授与など。プロテニスプレーヤーの錦織圭さんへ全員でビデオメッセージ。

<講演>

アイ・プラス株式会社 代表取締役の吉田繁敬^{しげよし}氏を講師に迎えました。氏は、子どもの心と体を育む楽しい運動遊びに関してはオーソリティです。「発育と発達の違い」「目的に合った指導の再認識」「インクルーシブな社会の創造」「幼児期からの運動習慣の重要性」など、具体的な例を挙げながらの内容に参加者は興味深く聴き入っている様子でした。

<実践事例・学習教材等の紹介>

筑波大学の大林助教からは、いくつかのテーマに沿った他県の実践事例のほか、気軽に活用できるコンテンツが紹介されました。また、各推進校の取組に対してコメントを述べられ、それぞれ高く評価いただきました。

いよいよ東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催の年を迎えました。県内の機運を高めるために、今年度の推進校の取組を広げていくよう努めます。また、講演で示唆された「運動好きな子どもを増やす」ことは、本県にとっての課題の一つでもあります。オリパラ教育を活かし、より多くの現場で実践が進むよう支援してまいります。